

第7回目（1993年11月20日放送）

【いろはがるた】

「葦の髄から天井を覗く」: To see heaven through a reed bar.

【話の内容】

日本に行った帰りの飛行機の中で、10月28日付の「東京新聞」に「100年前の不法行為、ハワイ王朝の転覆 アメリカ上院が謝罪決議」という記事が目にとまった。その決議案は、1893年にハワイ王国を倒し、自治権を奪ったことについて、公式に謝罪するというもので（補償やハワイ州独立には触れていない）賛成65票、反対24票で可決された。良くやったと思ったのは、採決の際、ダニエル・イノウエ上院議員がハワイ王朝転覆の謝罪を求めたことである。

1885年にカラカウア王がハワイから日本に行ったとき、日本に2つのお願いをした¹。①移民の受け入れ②アメリカやイギリスの圧力に対抗するため、日本を盟主としたアジア環太平洋の同盟をつくりたい。翌年、明治天皇は、日本にはまだ十分な国力がないとして、②の提案には賛成しなかった。

ハワイ王国がなくなってから100年。ハワイの総人口は何百万人だが、25%は日系人で、もう100%のピュアハワイアンを探すのはとても難しい。日系も、さまざまなバックグラウンドとのミックスが多い。大久保は25年前から自分のことをパシフィックシティズン、太平洋市民と言っている。

ハワイに来た日本人移民はどれだけ役に立ったか？日本人移民はハワイのためにも日本のためにも働いた。志賀重昂先生は、年間1200万円ものお金を日本へ送ったという。そんな人たちの次の世代が、ダニエル・イノウエのように上院議員にもなり、ジョージ・アリヨシのように州知事にもなり、フジオ・マツダ（松田富士夫）のようにハワイ大学の総長にもなった。これもひとえに親のおかげであるが、彼らこそが、太平洋市民の代表と言えよう。

第二次世界大戦中に抑留され、その補償として2万ドルをアメリカ政府が払ったが、大久保氏も受け取った²。その補償金でまず400冊のハワイで使われた日本語教科書を日本へ持っていき、「母国（日本）に誇る100年の日本語教育」という教科書の展示を行った。このような過去の資料が資料館にもあるが、国会図書館の神さんから電

¹ カラカウア王が日本を訪れたのは1881年である。1885年はカラカウア王の請願に応える形で日本からハワイへの官約移民が始まった年である。

² 1988年の「市民の自由法（Civil Liberties Act of 1988）」により、第二次世界大戦中に収容・転居を経験した日本人・日系アメリカ人の残存者1人につき2万ドルと大統領からの謝罪の手紙が送られることが決まった。

話が来て、大久保氏は戦争の苦しみは身に染みたということ話を話した。アメリカは間違いを謝って補償金もくれた。日本からはというと、領事館からアラーム時計をもらっただけである。お金の問題ではない。御苦労さまという気持ちを何かで表してほしいと思う。大久保氏はサンタフェ³の収容リストを持っているので、そのような気持ちを表す意味でもぜひ国会図書館に入れて欲しいということ話を話した。

沖縄県人は特に日の目を浴びるのが遅い。在布邦人が日本から叙勲されるのは1964年からだ、他人から聞いた話によれば、沖縄はアメリカ占領下にあり、遠慮があったからか沖縄の功労者への感謝が遅れた。他県より遅れはしたが、ダクタ⁴・マタヨシ(又吉全興)や長嶺将範らにも勲章が与えられた。

補償問題は全て解決したかと言うと、本土ではリロケーション(転居)の人たちは地獄物語であっただろう。自分の家を捨てて、収容所へと行かなければならなかった。生きていないと補償ももらえない。本当に苦しんだ人たちは、補償が決まったころにはもうほとんどが死んでしまっていた。

【曲】

「異国の丘」(歌:青木春雄 演奏:松竹オーケストラ)

【サブジェクトタグ】

ダニエル・イノウエ 教育 リドレス 強制収容・退去 ハワイ王国

³ ニューメキシコ州サンタフェにあった敵国人抑留所。司法省や陸軍により運営され、ハワイからは開戦前より作成されていたブラックリストを基に逮捕された新聞記者、日本語教師、僧侶などのコミュニティ指導者層がこのような敵国人抑留所に抑留された。

⁴ Doctor の意。